

ニシヨウタカ 二升高 ↓ナダカ 名高。

ニシヨウモロモト 二條師基 延元元年正月足利尊氏兵を率ゐて京に入り、新田義貞等と戦ひ、一たび敗れて鎮西に走つたが、蔑くもなく兵勢復振うたから、四月博多を發し、五月楠木正成を湊川に破り、義貞を追跡して東上した。後醍醐天皇因つて難を叡山に避け給うたが、足利直義は之を攻めて、六月五日から晦日に及ぶまで互に勝敗があつた。時に加賀の國守二條師基は、官軍の苦境に陥つたことを聞き、同國の敷地・上木・山岸、越前の瓜生・河島・深町等を率ゐ、七月五日を以て叡山の麓東坂本に達した。山門の大衆乃ち報を得て大に喜び、京師に内迫して一擧足利氏を破らんと謀り、十八日皆山を下つた。官軍の修學院前に至るや、兵を東西二陣に分ち、師基の北國勢は眞如堂を西に過ぎて、火を民家に放ち、五條河原に進んで戰鬪を開始し、新田氏の一族は亂の杜を南に見、紫野を内野に懸通つたが、共に敗れて再び山上に還つた。此の後八月尊氏は光明院を擁立して、官方の勢益振はなかつたから、天皇和を容して、十月十日京師に還幸し給ひ、義貞は皇太子を奉じて越前に赴き、而して師基は河内の東條に潛匿した。初め師基が加賀に下つた時、その居館を置いた地は河北郡御所で、御所の名は卿の住したによつて起つたといふ。

ニシヨネミツ 西米光 石川郡長屋庄に屬する部落。

ニシヨノミヤ 二所宮 羽咋郡土田庄に屬する部落。邑名は熊野神社あるより起り、古へは森村と稱したといふ。故に熊野神社の別當であつた安養寺の山號も森山といひてゐる。

ニシヨノミヤクマノジンジャ 二所宮熊野神社 ↓モロヲカヒコジンジャ 諸岡比古神社(羽咋)。

ニシワキ 西脇 鳳至郡川原田郷に屬する部落。

ニシヲアキノリ 西尾明教 通稱忠三郎・内膳・兵庫。初諱長教・長久。初め前田宗辰の御側小將となり、新知五百石を受け、寛保三年同御附大小將番頭並に進み、延享二年人持組に班して俸五百石を増し、同年若年寄に任ぜられ、寶曆三年父半人長恒の遺知四千石を襲ぎ、四年御家老に任じ、天明元年七月廿四日六十六歳を以て歿した。

ニシヲアキヨシ 西尾明義 通稱小膳・内膳。安永三年六月新知千石を受け、天明元年十一月父兵庫明教の遺知四千石を襲ぎ、外に三百石を加へて自分知を除かれた。後火消・寺社奉行・前田齊敬御用を経て、寛政三年十月御家老に任じ、十二月若年寄を兼ね、享和元年十月病に依つて加判及び若年寄を免ぜられ、二年九月十三日五十八歳を以て歿した。明義、學を富田景周に學び、又沈南顔を祖として花鳥を能く描いた。

ニシヲカツアキ 西尾克明 通稱仲進・隼人。初諱長恒。寶永六年養父半人長宗の遺知三千五百石を領し、九年支族西尾四郎左衛門長道の知行五百石を併せ、同年御奏者番、十四年若年寄、寛保三年御家老となり、寶曆三年五月廿五日六十八歳を以て歿した。

ニシヲカツオキ 西尾一起 大聖寺の人。通稱三郎兵衛。算學を好んだが、師承不明である。明和八年二月歿、享年六十二。

ニシヲカツオキ 西尾一起 大聖寺の人。通稱治郎右衛門。三郎兵衛一起の子で、その諱を襲うたのである。伊藤克孝に就いて算學を皆傳し、享和二年隱居して名を一守と改めた。文化十一年正月七十四歳を以て歿した。

ニシヲカツトモ 西尾一知 大聖寺の人。通稱治郎右衛門。算學を父治右衛門一良に習うて、一良を襲名し、後に一知に改めた。安政二年町役人となり、明治二年隱居し、十三年六月六十五歳を以て歿した。

ニシヲカツユキ 西尾一之 大聖寺の人。通稱治右衛門、後次郎作と改めた。治郎右衛門一良の子で、元治二年算學の皆傳を父に受け、明治十年小算算法必用を、廿五年籌算完覽を著した。四十五年六月六十八歳を以て歿した。

ニシヲカツヨシ 西尾一良 大聖寺の人。通稱治右衛門。治郎右衛門一起の子。算學を父に習ひ、天保八年六月六十一歳を以て歿した。

ニシヲキサエモン 西尾喜左衛門 大聖寺藩士。祿八十石。村井主殿事件に關し、柴山清太夫に御預となり、寶永七年二月廿七日上口に追放を命ぜられ、家財關所となつた。

ニシヲキンカ 西尾欣可 能美郡小松の俳人。屋號を醉屋といひ、染物を業とし、傍ら池坊華道の加賀國會頭職に當り、謠曲・狂言をも能くした。安政三年十月二十日七十六歳を以て歿した。

ニシヲゴロエモン 西尾五郎右衛門 長昌の二男主馬の子。祿五百石を受け、御馬廻に班したが、謂なく多額の借銀をなした廉により、延寶六年十二月十五日上口に追放を命ぜられた。

ニシヲナガマサ 西尾長昌 通稱隼人。本國參河。父五左衛門光昌は豊臣秀次に仕へた人。長昌十四歳の時、兄五左衛門と共に前田利長に仕へ、慶長五年大聖寺役に首級を得、大坂兩役に大小將番頭として従軍し、その後役には岡山口で槍功があり、漸く祿を加へて五千石に至り、人持組に班し、足輕頭・公事場奉行等に歴任し、萬治元年五月廿五日七十四歳を以て歿。子孫藩に世襲し、而して兄五左衛門は後に富山藩臣となつた。

ニシヲナガヨリ 西尾長頼 與三右衛門と稱し、長昌の孫で、隼人政親の子。祿三千石。延寶七年九月十日小松御城番を命ぜられ、元祿十年八月廿五日六十四歳を以て歿した。

ニソウ 仁藏 游政中石川郡向増泉に住し、加賀・能登の藤内頭であつたもの。三右衛門も同僚であつたが、仁藏の名が藤内頭の代表的のものとして呼び慣らされてゐた。

ニソウノカハラ 仁藏河原 石川郡向増泉の地で、大豆田組地跡の後地なる川除の邊を惣べて仁藏の河原と呼んだ。往古藤内は今いふ法船寺町附近の古藤内町に住んだが、後ここに移住せしめられ、而して藤内頭に仁藏があつたからその名を呼んだのである。

ニソウノヅカ 二艘野塚 石川郡野代に在る。加賀古跡考に、野代村に二艘野塚とて川石を積上げた塚二つあるが、その謂は知れぬとある。

ニソウノロウヤ 仁藏の牢屋 ↓ロウヤ牢屋。

ニソウブネ 二艘舟 珠洲郡馬渡の内の小字。

ニソンプツ 二尊佛 金澤高儀町の眞宗道場に善照坊があつた。貞享二年の書上に、